

（2）発震機構（注2）

今回の地震の震央周辺（領域b）の発震機構の分布をみると、概ね東西方向に張力軸を持つ正断層型の地震が多く発生している（図2）。今回の地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、東西方向に張力軸を持つ正断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

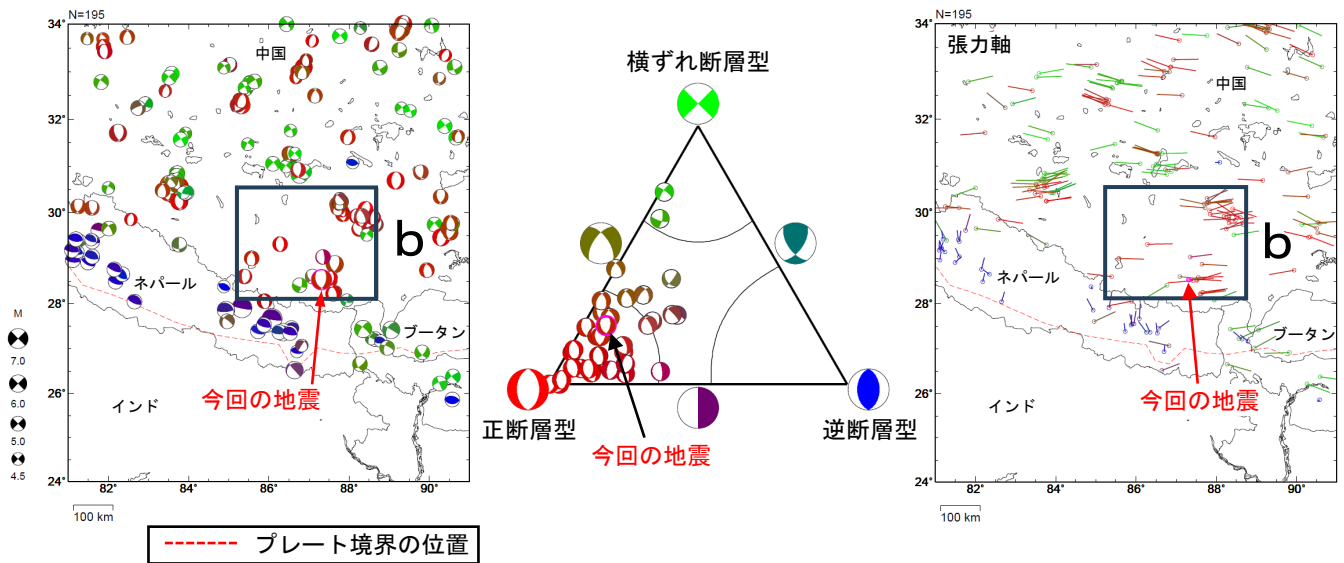


図2 発震機構分布図（左）、領域b内の発震機構の型の分布（中）及び発震機構の張力軸の向きの分布（右）
（1980年1月1日～2025年1月31日、深さ0～100km、 $M \geq 4.5$ ）
逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich（2001）による分類）。

（注2） 震源要素及び発震機構は、今回の地震は気象庁、その他の地震はGlobal CMTによる。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。
*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochimistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.